

NPO 法人フードバンク山口 食の物流ネットワーク整備プロジェクト中間評価報告書

■作成者 一般社団法人 SANY

■実施方法 2022年8月1日～31日の期間中に、評価項目の目標値及び状態を把握するために、以下の通り情報収集を実施した。

評価小項目	情報収集方法
①ロジハブ拠点の設置状況（三温度帯別対応状況を含む）	実績数値、理事・職員からの聞き取り
②ロジハブ拠点のコーディネート力	〃
③食品受け入れ・分配量（域内）	〃
④食品受け入れ・分配量（域外）	〃
⑤食料分配先の多様性	登録団体名簿
⑥企業への働きかけの実績	理事・職員からの聞き取り
⑦組織運営や財政状況	理事、職員からの聞き取り、事業計画・報告、財務諸表、理事会議事録等
⑧ステークホルダーとの関係性	理事・職員からの聞き取り
⑨情報発信	〃

評価報告書を作成後、2022年9月20日に実施された理事会にて報告し、今後の方向性について等の協議が行われ、理事長からのコメントを頂いた。

■評価判断基準

後述の判断基準値の目標値/状態に対して、「達成されている」「一部達成されている」「達成されていない」で判断。

■評価結果

評価小項目	評価基準		評価結果
	判断方法（指標など）	判断基準値（目標値/状態など）	
①ロジハブ拠点の設置状況（三温度帯別対応状況を含む）	県内の拠点の設置状況 拠点間の物流状況	ハブ拠点数 実施前：7か所 中間：8か所	達成されている
		三温度帯別の対応ができる設備 実施前：未整備 中間：各拠点の目標に沿って設備等の整備が進んでいる	一部達成されている
		拠点間の物流が整備されているか 実施前：未整備 中間：各拠点間の流通実績がある、今後目標とする状況が設定されている	一部達成されている
②ロジハブ拠点のコーディネート力	コーディネーターの役割の明確化 登録団体とのコミュニケーション方法の整備	登録団体に対して、コーディネーター担当者とその役割が周知されている	達成されている
		コーディネーターと登録団体間の情報の伝達方法が確立している	達成されている

	多様な食品分配方法の実施	パントリーの企画等、多様な食品分配方法の実績がある	達成されている
③食品受け入れ・分配量 (域内)	受入れ・分配実績	受入れ量 実施前：2020年度 42.3 t 2021年度：増加している	達成されている
		分配実績 実施前：2020年度 1751回 2021年度：増加している	達成されている
④食品受け入れ・分配量 (域外)	ロジシステム説明会の実施状況 ロジシステム登録団体数、分野別の数 受入れ・分配実績	ロジシステム説明会の実施回数 事業実施前：実績なし 2021年度：4回実施	一部達成されている
		ロジシステム登録団体数 実施前：実績なし 2021年度：8拠点	達成されている
		受入れ量 実施前：実績なし 2021年度：受入実績あり	達成されている
		分配量 実施前：実績なし 2021年度：配布実績あり	達成されている
⑤食料分配先の多様性	フードバンク山口の登録団体の分野別の数	多様な分野の団体に分配されている (こども食堂、母子福祉、生活困窮、高齢福祉、障害福祉他)	達成されている
⑥企業への働きかけの実績	物流、食品、倉庫業など関連のある業種の企業に対して、本事業の目標達成に向けた関係構築ができていますか	業種別の企業の働きかけの実績が10社に対してある	一部達成されている
		業界団体に対しての働きかけの実績がある	一部達成されている
		上記を踏まえた今後の計画を立てている	達成されていない
⑦組織運営や財政状況	理事会などのガバナンスや事業進捗管理などが適切に行われているか、財政状況が健全か	組織の意志決定の権限とプロセスが明確となっている	一部達成されている
		職員の職務権限が明確となっている	達成されていない
		事業計画に則った事業遂行となっている	一部達成されている
		経理処理が適切に行われ、財政状況が明確に把握され、今後目標とする状況が設定されている	一部達成されている
⑧ステークホルダーとの関係性	各ステークホルダーと本事業の目標達成に向けた関係構築ができていますか	ステークホルダーが整理されている	達成されている
		各ステークホルダーに対する関係構築の目標がある	達成されている
		特に重要なステークホルダーに対する働きかけの実績がある	達成されている
		上記を踏まえた今後の計画を立てている	一部達成されている
⑨情報発信	食フェスタの実施状況 ホームページ、SNSでの情報発信	食フェスタを年1回実施している	達成されている
		ホームページ、SNSで月1回程度発信している	達成されている

■各項目の具体的内容

①ロジハブ拠点の設置状況（三温度帯別対応状況を含む）

ロジ拠点数（実施前：7か所→中間：8か所）【達成されている】

ロジ拠点は、現状では山口がその役割を果たしているが、エレベーターのない設置場所や面積など機能面では不十分であり、再来年度以降、山口県立大学校舎に移動予定。

ハブ拠点は、県域全体に配置されており、2021年6月に光市に企業の協力によって、新たな拠点が設置された。

エリア別に見ると県東部と北部地域で充実が必要と認識しており、拠点設置の構想がある。



各拠点の状況

拠点	運営	設置場所	三温度帯別対応	目標
山口	フードバンク山口	県が施設を提供、庁舎 2 階 2 室 137 m ² 、エレベーター無 共用炊事場に冷凍冷蔵庫を設置 その他、倉庫スペースとしてアパート 1 室を使用	常温、冷凍 1,272L、冷蔵 1087L	設定されていない
宇部	宇部市	市が施設を提供、複合施設 4 階 49.38 m ² エレベーター有	常温、冷凍 282L	〃
下関	フードバンク山口理事	社会福祉法人の施設を借用、平屋建物 その他、倉庫スペースとしてアパート 1 室	常温、冷凍 282L	〃
周南	企業	企業が施設を提供、平屋建物 23.7 m ²	常温、冷凍 282L	〃
萩	個人	会社の元倉庫 1 階、20 m ²	常温、冷凍 282L	〃
防府	NPO 法人	複合施設 2 階、約 10 m ² 、エレベーター有	常温、冷凍 282L	〃
美祿	社会福祉法人	地域福祉センター1 室、平屋建物、約 27 m ²	常温、冷凍 282L	〃
光	企業	企業が施設を提供、社屋 2 階、エレベーター無 33 m ²	常温、冷凍 390L、冷蔵 390L	〃

東部：岩国市において、社会福祉協議会などに数年前から提案を行っている。市議会などからの声もあり、社会福祉協議会職員を中心に、市内各所へ協力してくれる事業者などがいないか相談を行うといった働きかけを実施中。

北部：動きはまだない状態。こども食堂も少ない地域であるので、そちらからアプローチするか、地域おこし協力隊などへの働きかけとするか、模索段階。

三温度帯別の対応ができる設備

(実施前：未整備→中間：各拠点の目標に沿って設備等の整備が進んでいる)【一部達成されている】

上述の各拠点の状況より、2020年度に全ての拠点において冷凍食品に対応できる設備は整備されている。冷蔵品については2拠点のみ対応可能な設備が整備されている。

運営が各拠点で違うため、独自性を大切にしながらの自主的な運営が行われている。

各拠点の目標とする状態や最低水準は設定されていない。

3か月に1度の拠点会議が実施されており、そこで課題などの共有がなされている。

拠点間の物流が整備されているか

(実施前：未整備→中間：各拠点間の流通実績がある、今後目標とする状況が設定されている)【一部達成されている】

協力企業（国広倉庫運輸株式会社）が物流を担い、2022年度に山口から県内各拠点への移送を1回実施し、0.34tの食品を拠点間で流通させた。拠点の設置場所が建物の上層階だったり、協力企業の配送エリア外の拠点があり、一部有料となるといった運用面での課題が認識されたが、今後目標とする状態は定められていない状態である。

考察

ハブ拠点の設置については、県域でのバランスのよい配置に向けて、順次働きかけが実行されている。各拠点の機能面での充実については、運営が各拠点で異なるという自主性を考慮しながらも、三温度帯別対応に向けての整備や情報共有が進められている。しかしながら、今後目標とする状態や最低水準が設定されておらず、拠点としての役割を担っていくためには、それらが明確になることが必要と考える。

拠点間の物流の整備については、協力企業による拠点間の移送を1回実施された。その実績にもとづき、把握された課題の検討や今後目標とする状態を設定していくことが必要と考える。

理事長コメント

ハブ拠点の設置については、人口や食品ロスの発生量、食料支援の需要などを考慮し、様々な主体に働きかけながら設置を進めています。今後、拠点に必要な役割・機能等の整理を進め、全体としての底上げを図っていきたいと考えています。

②ロジハブ拠点のコーディネート力

登録団体に対して、コーディネーター担当者とその役割が周知されている【達成されている】

コーディネーターと登録団体間の情報の伝達方法が確立している【達成されている】

本事業で雇用されているスタッフが、登録団体に対する食品分配に関する連絡、調整、ロジシステム利用の支援などの業務を担っていることが、登録団体に対して周知され、随時問合せ対応などを行っている体制である。

また、フードバンク山口の立ち上げ期からの利用団体向け説明会などによって、必要な団体に対して、情報伝達方法が確立している。

- ・こども食堂：県内7地域のこども食堂のLINEグループがあり、そこを經由して情報が県に登録している約130のこども食堂に伝達されている
- ・民生児童委員：山口県社会福祉協議会経由で伝達
- ・スクールソーシャルワーカー：山口県社会福祉士会経由で伝達
- ・各市の家庭児童相談室：山口市役所経由で伝達
- ・県内10か所の子ども家庭支援センター：下関市の子ども家庭支援センター経由で伝達

パントリーの企画等、多様な食品分配方法の実績がある【達成されている】

上述の情報伝達手段を活用して、支援が必要な家庭を募集し、夏休み・冬休み年2回「子ども宅食便」として約300家庭に食品を届けている。この取組みを通じて、新たな支援者の取り込みにつながっている。

考察

こども食堂、民生児童委員、スクールソーシャルワーカー、行政など、多様なネットワークを通じた情報伝達方法が確立している。特に県内7地域のこども食堂のLINEグループは、食品分配だけでなく、地域内の団体間をつなぐ役割も担うことができ、こども食堂のネットワーク化を進めることにつながっている。

③食品受け入れ・分配量（域内）

受入れ量（事業実施前：2020年度42.3t→2021年度：増加している）【達成されている】

2021年度受入れ量 50.3t

分配実績（事業実施前：2020年度1751回→2021年度：増加している）【達成されている】

2021年度分配実績 2,510回

考察

域内の食品受入れ量及び分配実績は、経年的にみて増加傾向にある。

④食品受け入れ・分配量（域外）

ロジシステム説明会の実施回数（事業実施前：実績なし→2021年度：4回実施）【一部達成されている】

2021年2回実施（参加者数1回目：19団体、2回目：4団体）

ロジシステム登録団体数（事業実施前：実績なし→2021年度：8拠点）【達成されている】

26団体（こども食堂23団体、生活困窮者支援団体など）

フードバンク山口の利用団体は326団体（2022年7月時点）であり、今後食品受け入れのタイミングに合わせて、全ての団体にロジシステム登録を促していく予定。それらの促しや操作のサポートはコーディネーター担当が行っている。

受入れ量（事業実施前：実績なし→2021年度：受入実績あり）【達成されている】

10.8t（21回受入れ：冷凍7回、常温10回、日用品4回）

企業名	温度帯	食品	重量(kg)
キューピーみらいたまご財団	冷凍	アヲハタ「くちどけいちご」(50g)	8
日新製糖	常温	上白糖(1kg)	60
キューピーみらいたまご財団	常温	燻製マヨネーズ(200g)	120
キューピーみらいたまご財団	常温	パン工房カレー(150g)	108
JA全中（農林水産省事業）	常温	米	7500
ADK	冷凍	ビーフ/ポーク	70
ADK	常温	ステーキソース小袋	1.5
ADK	常温	冷しゃぶソース小袋	7.5
ADK	日用品	ごちボ学習帳	0.8
ADK	日用品	ビーフランチョンマット	0.4
ADK	日用品	ビーフエプロン	0.05
ADK	日用品	ポークエプロン	0.05
Mr.CHEESECAKE	冷凍	Mr. CHEESECAKE UN ÉTÉ mango passion	180
ポッカサッポロ&ピバレッジ	常温	じっくりコトコト煮込みスープの素「完熟トマト」	561
アサヒグループ食品	常温	ドライフーズやお菓子、消毒液等	2104.3
キューピーみらいたまご財団	常温	QP3分クッキング からし和え用	6
キューピーみらいたまご財団	冷凍	アヲハタ「くちどけいちご」(50g)	6.4
キューピーみらいたまご財団	冷凍	アヲハタ「くちどけりんご」(50g)	6.4
日本ハム	冷蔵	デリフィオーレ)サーモンチズ162G	8.1
日新製糖	常温	上白糖(1kg)	40
三菱食品	冷凍	ラケット 鮭と5種野菜の煮びたし	36
合 計			10824.5

分配量（事業実施前：実績なし→2021年度：配布実績あり）【達成されている】

受け入れ量と同量

考察

ロジシステム説明会の開催回数は少ないが、システム登録自体は既存の登録団体に対して、直接促し
がなされており、食品受入れのタイミングに合わせて、順次増加している。
受入れ及び分配の実績もあり、常温だけでなく冷凍品の分配も行われている。

理事長コメント

ロジシステムによる域外からの食品の受け入れは、各拠点や支援先団体等に一定程度の負担が生じる
ことから、ロジシステムについて丁寧に説明をしながら増やしていく必要があると考えている。全体
として食品の需要と供給のバランスを考えながら整備を進めていきたい。

⑤食料分配先の多様性

多様な分野の団体に分配されている（子ども食堂、母子福祉、生活困窮、高齢福祉、障害福祉他）【達成されている】

フードバンク山口の利用団体は 326 団体（2022 年 7 月時点）であり、内訳は以下の通りである。

分野別

分野	団体数	割合
子ども食堂	61	19%
高齢者	51	16%
児童福祉	47	14%
スクールソーシャルワーカー	31	9%
障がい者	25	8%
行政	23	7%
社会福祉協議会	16	5%
民生委員	13	4%
生活困窮者支援	12	4%
その他	47	14%
合 計	326	100%

その他：自治会、教育機関など

地域別

地区	団体数	割合
山口市	69	21%
宇部・山陽小野田	35	11%
防府市	33	10%
下関市	86	26%
美祢・萩・長門	17	5%
周南・下松	27	8%
光・柳井・大島郡	15	5%
岩国・熊毛・玖珂	13	4%
スクールソーシャルワーカー	31	10%
合 計	326	100%

考察

最も多い分野は子ども食堂（19%）、次いで高齢者（16%）、児童福祉（14%）、スクールソーシャル
ワーカー（9%）となっており、子どもや福祉を取り巻く多様なステークホルダーの利用があり、今後
のロジシステム登録も多様な分野に広がっていくと考える。

⑥企業への働きかけの実績

業種別の企業の働きかけの実績が 10 社に対してある【一部達成されている】

2020 年度県委託事業「フードバンク活動拡充定着事業業務」において、コーディネーターが配置され、県内 33 社の企業に対して事業説明などを行い、関心をもっている企業のスクリーニングがなされている。

2021 年度以降は、それらの企業と連絡を取り続ける手法として、年 6 回勉強会の案内などをメールで行うとともに、重要性の高いところ（食品、物流、倉庫業など 22 社）に声掛けを行っている。
内訳：運輸 4 社、食品 13 社、倉庫 1 社、その他の関連企業 4 社（日本郵便株式会社周西地区連絡会、マックスバリュ西日本株式会社 地域連携・環境社会貢献部、株式会社安成工務店、生活協同組合）

株式会社中特フォールディングス（団体正会員、理事の所属企業）の働きかけにより、国広倉庫運輸株式会社で拠点間の物流を担うことになった。

業界団体に対しての働きかけの実績がある【一部達成されている】

本事業の周知などを目的として、以下の団体に対して情報提供を行っている。

山口県商工会連合会、山口商工会議所女性会、一般社団法人山口県中小企業経営者協会
山口県中小企業団体中央会、山口経済同友会、山口南ロータリークラブ

上記を踏まえた今後の計画を立てている【達成されていない】

具体的な行動計画には落としこまれていない。

考察

2020 年度の事業などで関係性のできた企業に対して、継続的な関わりができています。関連する企業からの働きかけにより、物流での協力実績が出てきたことは、継続的な関わりができてることによる成果と考える。ただし、依然として課題が残る倉庫や物流については、今後の具体的な計画を策定した上で継続した働きかけを行う必要がある。

理事長コメント

企業への働きかけは、様々な視点から進める必要があると考えている。理解を得られた企業での小さな実績を積み重ねながら、計画的に進めていきたい。

⑦組織運営や財政状況

組織の意志決定の権限とプロセスが明確となっている【一部達成されている】

職員の職務権限が明確となっている【達成されていない】

最高意志決定機関は総会、事業執行は理事会が担うという組織体制であり、理事会は3か月に1回実施されている。理事は全員非常勤理事であり、実務は職員が担っている。現在、業務担当理事の配置が検討されている。

業務執行に必要な大きな意志決定は理事会において行われているが、それより下層の判断は都度、理事長や職員により行われている。その際のプロセスや権限は明文化されていない。

事業計画に則った事業遂行となっている【一部達成されている】

年間の事業計画はあるが、それを月次や担当別に落とし込んだ計画とはなっていない。現在、理事会にて短期～月次に落とし込んだ事業計画づくりが協議されている。

経理処理が適切に行われ、財政状況が明確に把握され、今後目標とする状況が設定されている【一部達成されている】

経理処理は職員1名が担当し、日々の処理は滞ることなく行われている。

決算は年1回、監事による内部監査を実施。

収入の経年推移

科目	2017年度		2018年度		2019年度		2020年度		2021年度	
会費	212,000	51%	250,000	7%	300,000	8%	297,000	2%	302,000	2%
寄付金	206,559	49%	498,167	13%	1,845,217	48%	3,815,287	26%	5,725,611	35%
助成金			2,976,855	80%	1,730,000	44%	10,462,996	72%	10,454,000	63%
その他収益			3	0%	11	0%	16	0%	20,063	0%
合計	418,559		3,725,025		3,875,228		14,575,299		16,501,674	

助成金収入が60～70%を占めているが、寄付金収入は経年的にみて1.5～2倍に増加している。

考察

理事会の開催は3か月に1度と頻繁な開催がなされている。しかしながら、職員が実務を行う上で必要な職務権限の明確化や、具体的な事業計画策定がなされていないため、それらの対応が急がれる。財務状況は助成金収入に依存している状態であるが、寄付金収入は年々増加しており、その内容を精査し、事業計画の中に具体的な働きかけを落とし込むことが必要と考える。

理事長コメント

組織運営体制の構築について、理事会での議論を重ねながら整備を進めているところである。早急に体制を整えていきたい。

⑧ステークホルダーとの関係性

ステークホルダーが整理されている【達成されている】

各ステークホルダーに対する関係構築の目標がある【達成されている】

ステークホルダー	関係構築の目標
子ども食堂	子育て家庭への食品提供の仲介として、即時性のある情報伝達と分配が確立される。 各拠点が、各地域での子ども食堂ネットワークを構築する。 現状：県内7地域の子ども食堂のLINEグループを構築し、そこを經由して情報が県に登録している約130の子ども食堂に伝達されている。子ども食堂などを対象とした衛生講習を実施。
民生委員・児童委員、スクールソーシャルワーカー	子育て家庭への食品提供の仲介として、情報伝達が有効に行われる。 生活困窮者への食品提供の仲介として、各拠点の利用を促す。 現状：山口県社会福祉協議会経由、山口県社会福祉士会経由での情報伝達が確立している。スクールソーシャルワーカー31、社会福祉協議会16、民生委員13の登録がある。
社会福祉団体	生活困窮者への食品提供の仲介として、各拠点の利用を促す。 現状：生活困窮者支援団体12の登録がある。
フードロスに関連のある企業（農業、食品製造業、小売業）	フードロス削減のために、食品提供などを自社の事業内容に組み込んでもらう。 現状：企業39社と合意書を締結し、食品提供などの協力が行われている。
物流に関連のある企業（運輸、倉庫）	社会貢献活動として、自社のもつサービスや設備を提供してもらう。 現状：後述
関連の少ない分野の企業	自社でできるフードロス削減の取り組みを行うことができる。 現状：100か所以上のフードポスト設置件数がある。フードドライブなどを自社で取り組む企業がある。
行政（県担当課）	フードバンクを公共サービスのひとつと位置付け、継続に必要な資金提供や行政のもつリソースの提供などが行われる。 現状：後述
議員	フードバンクを公共サービスのひとつと位置付け、担当課に予算確保などの働きかけを行ってもらう。 現状：後述
教育機関	フードロス削減の取り組みを学校行事や学生の活動実践に取り入れる。 現状：探究学習などでフードロス削減が身近なテーマとして取り上げられている。
寄付者	フードバンクの社会での役割を認識し、持続的な活動となるよう継続的な寄付を行ってくれる。 現状：寄付金収入は経年的にみて1.5～2倍に増加している。
ボランティア	フードバンクの社会での役割を認識し、持続的な活動となるよう継続的にボランティア活動に参加してくれる。 現状：現状の活動のほとんどがボランティアによって支えられている。

特に重要なステークホルダーに対する働きかけの実績がある【達成されている】

重要なステークホルダー	働きかけの実績
行政（県担当課）	県の持つ施設を拠点として提供してもらっている。 農林水産省の補助金に関する情報提供や、予算化に向けた協議を継続的に実施している。
議員	2022年8月に、フードバンク活動に関心のある議員に向けた実状や今後の課題を伝える勉強会の実施。 予算措置に向けた県担当課への働きかけを依頼し、担当課である廃棄物・リサイクル対策課、及びこども家庭課を交えた協議の場を持つ予定。
物流に関連のある企業（運輸、倉庫）	運輸、倉庫業などに関連する企業に対して、協力の働きかけを行っている。その中で、国広倉庫運輸株式会社の協力が得られ、試験的に拠点間の配送を実施することができた。

上記を踏まえた今後の計画を立てている【一部達成されている】

上記の重要なステークホルダーに対しては、大きな目標設定がなされている。これまで具体的な働きかけを行うための行動計画は立てられていなかったが、特に重要なステークホルダーである行政と議員に対して 2022 年 7~8 月にかけて、ロビー活動や勉強会、予算化に向けた協議などを行っている。

考察

大きな目標設定はなされているので、具体的な働きかけを行うための行動計画と、実施しての評価を継続して行っていく必要がある。

理事長コメント

SDGs や県政課題などの社会課題と照らし合わせ、フードバンクによる直接的な課題解決とその波及効果（間接的な課題解決へのアプローチ）を明確にし、より効果的に働きかけられるよう計画をしていきたい。

⑨情報発信

食フェスタを年 1 回実施している【達成されている】

食フェスタやまぐち

日 時 2021 年 12 月 3.4 日

会 場 維新ホール（山口市）

内 容 「食」を通じた支援団体・企業等と情報交換会。食品ロスに関する講演、山口県の食料支援やエシカル消費講座など

来場者数 66 名（属性：企業 10 社、行政 7、社会福祉法人 3、大学 2、協同組合 2、社団法人 1、NPO 3、こども食堂 7、その他 6 団体）

ホームページ、SNS で月 1 回程度発信している【達成されている】

ホームページ上でブログの更新（月数回）が行われている。2021 年度 41 回

Facebook ページの更新が月数回の頻度で行われ（2021 年度 40 回）、各拠点や理事のアカウントでも月数回の投稿が行われている。

Twitter 2021 年度 9 回発信

ニュースレターの発行（年 1 回発行、2021 年度は 9 月、部数 5,000 部）

プレスリリースを 6 回実施し、全てが新聞社に掲載され、3 回はテレビ局に取り上げられている。

考察

食フェスタは多様な属性の来場者が参加しての実施ができています。

情報発信はホームページでの発信とともに、SNS で団体アカウントだけでなく、各拠点や理事のアカウントでも投稿がなされており、広報担当だけが担うのではない発信ができています。